

参考資料

- アレルギー物質を含む食品表示に関して
- 児童生徒の食物アレルギーの状況

○アレルギー物質を含む食品表示に関して

食物アレルギーを起こすことが明らかになった食品のうち、特に発症数や重篤度から勘案して表示する必要性の高いものを特定原材料(7品目)として定め、これらを含む加工食品について、これらを含む旨を記載しなければならないこととされています。

症例数や重篤度が、特定原材料に比べて少ないものを特定原材料に準ずるもの(20品目)とし、これらを原材料として含む加工品については可能な限り表示するよう努めることとされています。

《必ず表示される品目》特定原材料

	代替表記	特定加工食品	アレルギー表示の対象外食品(例)
	表記されるアレルギー物質には、別の書き方も認められています。	一般に、名称からアレルギー物質が含まれていることが明白なときには、アレルギー物質名表記をしなくてもよいことになっています。	アレルギー物質と類似している食品の中には、アレルギー物質に含まれない食品があります。
卵	たまご、鶏卵、あひる卵、うずら卵、タマゴ、玉子、エッグ	マヨネーズ、かに玉、親子丼、オムレツ、目玉焼、オムライス	魚卵、は虫類卵、昆虫卵
乳	生乳、牛乳、特別牛乳、成分調整牛乳、低脂肪牛乳、無脂肪牛乳、加工乳、クリーム(乳製品)、バター、バターオイル、チーズ、濃縮ホエイ(乳製品)アイスクリーム類、濃縮乳、脱脂濃縮乳、無糖れん乳、無糖脱脂れん乳、加糖れん乳、加糖脱脂れん乳、全粉乳、脱脂粉乳、クリームパウダー(乳製品)、ホエイパウダー(乳製品)、タンパク質濃縮ホエイパウダー(乳製品)、バターミルクパウダー、加糖粉乳、調製粉乳、はっ酵乳、乳酸菌飲料、乳飲料	生クリーム、ヨーグルト、ミルク、ラクトアイスアイスマイルク、乳糖 ^(※1)	山羊乳、めん羊乳
小麦	こむぎ、コムギ	パン、うどん	大麦、ライ麦、えん麦、はと麦
落花生	ピーナッツ		
えび	海老、エビ		
そば	ソバ		
かに	蟹、カニ		

(※1)「乳糖」はタンパクの残留が確認されたため、特定加工品として扱われます。

《表示が勧められている品目》特定原材料に準じるもの

	代替表記	特定加工食品	アレルギー表示の対象外食品(例)
いくら	いくら、スジコ、すじこ		
キウイフルーツ	キウイ		
くるみ	クルミ		
大豆	だいず、ダイズ	醤油、味噌、豆腐、油揚げ、厚揚げ、豆乳、納豆	
バナナ	ばなな		
やまいも	ヤマイモ、山芋、山いも	とろろ、長いも	
カシューナッツ			
もも	桃、モモ、ピーチ		
ごま	ゴマ、胡麻		トウゴマ、エゴマ
さば	鯖、サバ		
さけ	鮭、サケ、サーモン、しゃけ、シャケ		にじます、やまめ、いわな
いか	イカ	するめ	
鶏肉(※2)	とりにく、とり肉、鳥肉、鶏鳥、とり、チキン	焼き鳥、ローストチキン、チキンブイヨン、鶏ガラスープ	
りんご	リンゴ、アップル		
まつたけ	松茸、マツタケ		
あわび	アワビ		とこぶし
オレンジ			温州みかん、夏みかん、レモン、グレープフルーツ
牛肉(※2)	牛、ぎゅうにく、牛にく、ぎゅう肉、ビーフ		
ゼラチン			
豚肉(※2)	ぶたにく、豚にく、ぶた肉、豚、ポーク	とんかつ	

(※2) 内蔵、皮、骨は表示の対象ではありません。

出典：消費者庁「加工食品のアレルギー表示」平成26年3月改訂版 引用

○児童生徒の食物アレルギーの状況

平成 25 年度「学校生活における健康管理に関する調査事業報告」（日本学校保健会）によると、食物アレルギーのある児童生徒は、全国小学校で 4.5%、中学校で 4.7%、北海道においては小学校で 7.7%、中学校で 8.5%と、全国に比べ多くなっています（図 1）。

札幌市においても食物アレルギー症状のある児童生徒は、年々増加傾向にあり（図 2）、札幌市学校教育指導の実態調査（ただし、自己申告も含む。）では、小中学校における食物アレルギー症状のある児童生徒の割合は、平成 26 年度においては、小学校 11.3%、中学校 13.2%となっています（表 1）。

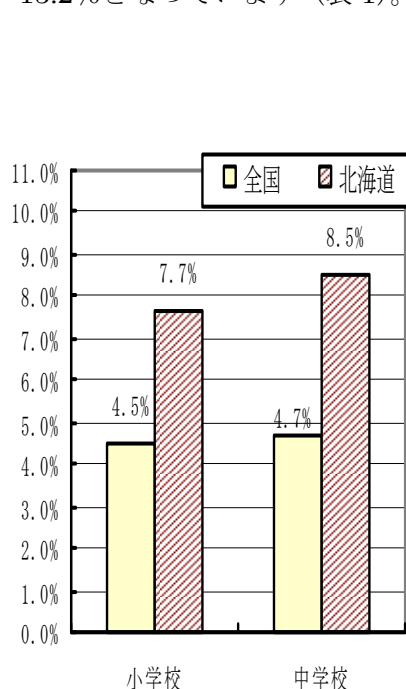


図 1 食物アレルギーのある児童生徒の割合(平成 25 年度)

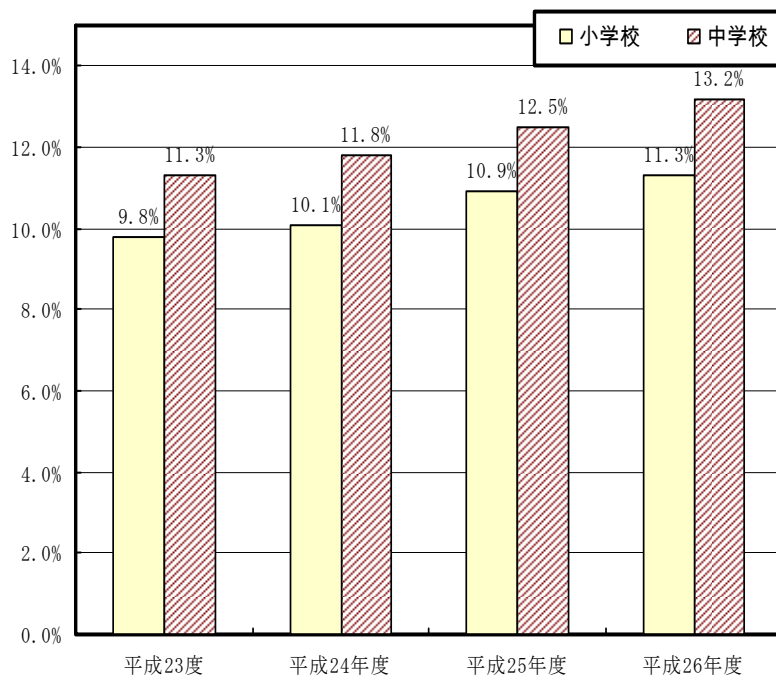


図 2 札幌市における食物アレルギーのある児童生徒の割合(平成 23 年度～26 年度)

表 1 食物アレルギーのある児童生徒

	平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
在籍数	90,442 人	46,254 人	89,821 人	45,700 人	89,781 人	45,140 人	89,427 人	44,929 人
児童生徒数	8,886 人	5,249 人	9,062 人	5,385 人	9,819 人	5,652 人	10,091 人	5,951 人
割合	9.8%	11.3%	10.1%	11.8%	10.9%	12.5%	11.3%	13.2%

・ 平成 23、24、25、26 年度札幌市学校教育指導の実態調査結果より

札幌市の小中学校において学校給食での食物アレルギー対応を行っている児童生徒は、表2のとおりとなっています。

表2 平成26年度学校給食での食物アレルギー対応 (複数回答)

項目	小学校		中学校	
	学校数	児童数	学校数	生徒数
	学校数割合	児童数割合	学校数割合	生徒数割合
給食で使用している食材について情報提供している児童生徒	199校	2,051人	86校	660人
	98.5%	2.3%	88.7%	1.5%
牛乳のアレルギーで飲用を中止している児童生徒	173校	604人	79校	262人
	85.6%	0.7%	81.4%	0.6%
献立内容により主食や副食を持参している児童生徒	185校	990人	77校	248人
	91.6%	1.1%	79.4%	0.6%
過度の症状のため毎日弁当を持参している児童生徒	49校	65人	13校	17人
	24.3%	0.1%	13.4%	0.04%
除去食の対応をしている児童生徒	184校	984人	75校	233人
	91.1%	1.1%	77.3%	0.5%
代替食の対応をしている児童生徒	151校	496人	62校	119人
	74.8%	0.6%	63.9%	0.3%

- ・ 学校数割合は、全小学校202校、全中学校97校に対する割合
- ・ 児童数割合、生徒数割合は在籍数（小学校89,427人、中学校44,929人）に対する割合
- ・ 平成26年度札幌市学校教育指導の実態調査結果より

食物アレルギーの原因となる主な食品については、小学校で多い順に卵、くだもの、魚卵、中学校ではくだもの、卵、魚卵となっています（表3）。

表3 平成26年度学校給食で使用する食材で食物アレルギーの原因となる主な食品(複数回答)

食品	小学校		中学校	
	人数	割合	人数	割合
卵	3,177人	31.5%	956人	16.1%
乳・乳製品	1,175人	11.6%	427人	7.2%
小麦	273人	2.7%	50人	0.8%
えび	791人	7.8%	448人	7.5%
かに	609人	6.0%	310人	5.2%
魚卵	1,239人	12.3%	536人	9.0%
魚介(えび・かに除く)	647人	6.4%	429人	7.2%
くだもの	3,096人	30.7%	2,991人	50.3%

- ・ 割合は食物アレルギーのある児童生徒に対する割合
(給食で提供されない食品のアレルギーを持つ児童生徒を含む。)
- ・ 平成26年度札幌市学校教育指導の実態調査結果より